

国際観光地の条件とは何かを考える
栃木県を国際観光地とするために

開倫塾
塾長 林 明夫

1. はじめに

- (1) おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただきありがとうございます。
- (2) 私は、2009年10月28日(水)発行の読売新聞のコラム「とちぎ寸言」に原稿を書かせていただきました。今日は、その内容について説明をさせていただきます。
- (3) 読売新聞の栃木版に毎週水曜日に掲載される「とちぎ寸言」には、12名の方が交替で、それぞれの分野から自分の考えを書いています。
- 今回私が書いた内容は、栃木県の観光政策についてです。栃木県の観光をどのようにすればよいのか、特に外国人の観光客を呼び込むにはどうすればよいかについての考えです。

2. 国際観光地の条件とは何かを考える 栃木県を国際観光地とするために

- (1) 私の願いは、年間1000万人の外国人観光客を栃木県に呼び込むことです。今のところ、栃木県内の観光地に宿泊される外国の方は、年間13万人ぐらいしかいらっしゃいません。これを1000万人に増やすことができれば、栃木県の国際化や栃木県の内需拡大、つまり栃木県の経済成長に非常に役立つと考えられます。
- 日光や那須の景勝・神社仏閣、足利市の足利学校など栃木県には素晴らしいところがたくさんあります。これらを活用し、外国人観光客の宿泊数1000万人をぜひとも目指していただきたいと思います。
- (2) ところで、「数少ない統一ある刺激は、数多い散漫な刺激に勝る」という言葉があります。1つの統一した刺激・イメージを集中的に送り出すことは、あれやこれやといろいろなイメージを栃木県から発信するよりはるかによいということです。
- 私は、栃木県の全県民が知恵を振り絞って、つまり全県一丸となって「栃木県はこのような県だよ」という統一イメージをつくれれば、必ず年間1000万人の外国人観光客を呼び込めると思っています。
- 統一イメージはとても大事です。現在使っている「今が旬です栃木県」で果たしてよいでしょうか。ほかによいものがありそうですね。これを全県一丸でつくり、ブランドイメージにするとよいと思います。

- (3) 外国人観光客は、最初は団体旅行で来る方もいらっしゃるでしょうが、最終的にはカップルや家族、友達同士、あるいは一人で来ます。外国人観光客の場合は、団体旅行は非常に少なく、個人旅行が多いというのが特徴です。

ですから、英語はもちろんですが、最近是中国からの観光客が増えているので中国語や、隣国の韓国人が使うハングル語、これら3つの言語で栃木県内の観光地の場所を表記したホームページをつくり、外国人観光客がそれを見て行きたいところを探せるようにすることが最も大切であると思います。

訪れたい場所・泊まりたい宿などをホームページで探す方が多いですから、それらを英語・中国語・ハングル語で表記したホームページの整備は急務であると思います。橋を架けることや道路を整備することも大事でしょうが、それに負けないだけの税金をホームページはじめソフト面の整備に投入すべきであると思います。

予約や問い合わせも、日本語だけでなく英語・中国語・ハングル語でインターネットやe-mail、FAX、電話を使ってスムーズにできなければ、国際観光地にはなれません。

そのためにはどうすればよいかというと、英語・中国語・ハングル語が自在に使える県内にお住まいの外国人の留学生や卒業生の皆さんが大活躍できるしくみを、県や市町は整えるべきであると思います。

現在、外国人留学生30万人構想があります。栃木県の人口は全国の約1/60ですから、30万人×1/60でおおよそ5000人の方が栃木県で留学生生活を送ると考えられます。その方々が全員、卒業してからも県内に残って就業できるようなしくみをつくっていただきたいと思います。

また、ホテルや旅館、観光施設で働く皆さん、バスやタクシーの運転手さんへの外国語教育も欠かせません。国際観光地であれば、外国人にサービスを提供する方は全員英語ができなければ話にならないからです。加えて、中国語やハングル語もできるだけ覚えてサービスを提供していただきたいと思います。英語や中国語、ハングル語はプロとして当然身につけなければならない能力と言えます。

- (4) さらに、街の入り口や駅などには案内所はどこかを示す Information(インフォメーション)の国際表示である i マークが必要であると思います。JR 宇都宮駅には「？」のマークがついた案内所がありますが、世界のどこの観光地にもある「i」マークに変えるべきです。両替所も必要ですね。ドル・ユーロ・元(げん)・ウォンなどの通貨やカードが使えないホテル・旅館・店・観光施設などをできるだけ少なくすることも大事です。

- (5) 美しい景観をつくるためには、街の屋根の色・建物の高さ・建築様式・看板の大きさ・街路灯の形や色の統一が不可欠です。

電線などの地中埋設や、ケーブルテレビなどを活用してのテレビアンテナの除去などは、世界中の国際観光地では美しい景観づくりに向けての当然の取り組みとなっています。

PR用の「旗」もすべて撤去すべきです。

観光地では、駅を降りて街の景色を見た瞬間が大事です。美しい山々の景観を大事にする観

光地ならば、駅から美しい山々の間に高い建造物や原色のカンバン、宣伝用の旗、鉄塔、アンテナなどが立っていたらその景観は台無しと言えます。景色を害さないカンバンを工夫すべきです。

(6)外国人観光客の方々は、同じ宿泊施設に何泊もするのが普通です。長期滞在していただくコツは、「1人1泊いくら」とするのではなく、「1部屋1日いくら」と部屋単位で宿泊料をいただくことだと思います。

(7)旧足尾高校をはじめ使用されていない建物や家屋が栃木県にはたくさんあります。そこで最後に、それらを数カ月単位の長期滞在用の施設として市町単位でリフォームし、外国人観光客にお貸ししてはどうかという提言をしました。

3. おわりに

このような内容を、2009年10月28日(水)発行の読売新聞のコラム「とちぎ寸言」に書かせていただきました。

皆様はどのようにお考えでしょうか。

- 2011年1月7日加筆、校正 -